五省会ニュース

発行所
特定医療法人五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能 正一郎

五省

一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ずるなかりしか
一、気力に欠くるなかりしか
一、努力に憾みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

新年随想

〝一色一生〟の覚悟

「はんなり」と「つやめく」生を

兼久文治

万葉集には「紫草にほへる妹を…」とか「紅にほふ…」とか「色が匂う」という用い方がある。「鮮やかに照りはえて浮き立つような色」を意味するのだろう。しかし感覚だけでなく本当に染め上げたばかりの着物は染料が強く匂う。若い時に着た新しい紺がすりなどの匂いは「匂い立つ」という感じで今も忘れられない香りである。

今でも家では着物でないと落ち着かないのは私たち世代のせいだろうか。新年は当然のように着物で迎える。生地はともかく男の着物の色はそう多くないが、私はその中で昔から藍染めが好きだ。それも群青色を抑えて、緑、黄、紫など複雑に色が重なり合い、ほのぼのと温かく、地味なようで華やかな…そんな色がいい。

染色工芸家で人間国宝の志村ふくみさんが書いた一文がある。「かめのぞき」と題して生きた藍のあやしい変化を描いている名文だ。

「かめのぞき」「のぞき色」は藍染めの一番薄い色名になっているが、彼女は毎朝、藍甕をのぞいてその日の機嫌のよし、あしを見る。藍のなかには、まぶしいほどに盛んな藍気を放っているが、使うとあっという間に色が燃えつきてしまう甕もあれば、いつまでも衰えずに〝藍の精〟のような老境の格調と美を保っている甕もある。

その中で、たまにナゾめいた不思議な群青と白群のあわいの青磁の色にめぐり会うことがある。これをだれが名付けたか秘色（ひそく）と呼ぶ――そんな話が書いてあった。その色は内に秘めた華やかさ、抑えたつややかさ、であろうか。

明治生まれの純粋な京女だった亡母は、京女でないと使わない、いくつかの京言葉を持っていた。「はんなり」「ざんぐり」「まったり」…などという言葉もそうだった。博多で生まれ育った私には今もはっきりイメージがつかめない。美しい秘色の着物なんかは京ことばの「はんなり」とか「ざんぐり」が当てはまるのだろう。

「ざんぐり」は京友禅職人や茶人らが使う言葉で、色と模様がしっくりとけこんで、あかぬけした風雅な趣き。まろやかでコクのある味に使う「まったり」とも共通点がある。「はんなり」はこれより明るく、華やかさがある。しかし、単純な華やかさでなく、抑制のきいた渋さもこめられているようだ。時には「恥らい」や「かわいらしさ」も含むから難しい。老いてなお、格調と色つやを失わぬ藍甕の生気がぴったりなのかもしれない。

「若さはうるわし、老いたるはなおうるわし」という言葉があった。「うるわし」もいいが「老いのつやめき」という言葉も好きだ。「はんなり」「つやめき」は老いてこそなおそうありたい生であろう。人生百年。新しい年を、はんなりとつやめいて迎えたい。

志村さんは「一つの真の色を出すのに一生のいのちをかける」という。「一色一生」。新しい年にふさわしい覚悟であろう。（北日本新聞社論説顧問、相談役）

厳しい新年を迎えて

西能 竑

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えると、気分は一新し、今年は良い年でありますようにと願うわけですが、政治の混乱とともに、深刻な不景気のなかであり、期待できる明るい材料は見えてこないようであります。

医療界においても、高齢化社会の到来による疾病構造の変化と、高額な治療材料や薬剤の多用化により、医療財政の財源確保が困難を極めているようであります。

このような状況下で、四月に予定されている診療報酬改定は、すんなりと良い結果が出そうにはありません。

21世紀に向けた医療政策では、良質な医療の確保、効率的な医療供給体制の確保、そして公平と公正の確保を三つの目標としてかかげています。

具体的な方向としては、医療機関の機能分化、医療施設と環境の改善、医療機関の機能評価、人員の確保、さらに医療、保健、福祉の整備などであります。

一方、肝心の財源確保については、公平と公正の名のもとに、給食自己負担の導入が報じられ、医療現場での反対の声が高まっており、又、ではアメリカの約半分と言われており、厚生行政の根本的な改革が必要であります。

躍進に向かって力を貯える

さて、このような流れのなかで、当院は、どのような方針で進むべきでしょうか。

まずは、医療は、サービス産業であるとの認識が必要であり、「質の良い」医療サービスを「効率的」に提供し、より多くの患者さんに御利用して頂くことであります。このためには、当然ながら、適切な人材確保と施設及び環境の整備が重要と考えます。

地域との交流も大切であります。地域住民の医療に責任を持ち、気軽に受診して頂く人間関係が、病院の存在する必要な条件であります。

次に、この病院の特徴をはっきりさせることでしょう。専門外来の強化や地域医療の充実などが考えられます。

いずれにしろ、医療界は冬の時代です。職員が一丸となり、次なる、躍進に向かって、力を貯える年となるでしょう。本年もよろしくお願い致します。

付添看護料の解消も問題の多い点であります。同時に行われる薬価改定もきびしい見直しとなるであろうし、ハップ剤、ビタミン剤、漢方薬等の自己負担の噂も聞こえてきます。

このような事前情報から結果的には国民医療費を国では支えきれないため、受益者である患者負担の方向で今後は進むようです。しかし、我国の医療費は、諸外国よりも安く、GNP比

あすなろ

昭和の初めの一時期、一年生の国語教科書の第一頁が「コマイヌサン、ア、コマイヌサン、ウン」だったことがある。先生がどう教えたか知らないが、今の若者では意味がつかめないかもしれない▼いうまでもなくコマイヌは狛犬と書き、神社、仏閣で邪悪の出入を禁じる鎮獣。左右一対あって、片方が口をあけていてア、片方は口を閉じていてウンである。起源はペルシャ、インドで、元来は獅子だった。古代の日本人はこれを高麗の犬と考え、獅子と混同したらしい▼しばらくは犬と獅子が同居していて、奉納する舞楽も犬と獅子両方を演じていた。後に守護の方は犬の形に近くなり、舞の方は雄壮な獅子舞が喜ばれるようになって定着した▼ところで、今年は戌（いぬ）年。太古から犬は人間と関係が深く、狩猟犬や番犬の役目を果たしていたようだ。子守歌で懐かしい犬張子は、出産の守り神として武家の嫁入道具に加えられ、江戸時代に庶民の間に普及した。戌の日に妊婦が岩田帯をするのと同じ、犬が多産で、お産が軽いのにあやかったらしい。東京では今も初宮参りに犬張子を贈る風習が残っている▼さて、昨年は狛犬ではないが、アと口があいてふさがらぬことが続いた。そのたびにウンと口を閉じ、むっとする心を鎮めた人も多かったろう。今年は口元に思わず笑みが浮かぶ年であって欲しいものだ。

平成六年
特定医療法人　財団五省会

春　本年もよろしくお願い申し上げます

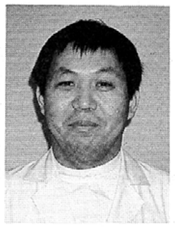
理事長　西能正一郎
常務理事　中永　久光
理事　西能　竑
理事　住　博司
理事　中尾　哲雄
理事　米田　寿吉
監事　石川　実
監事　筧田　英二
評議員　稲垣　忠一
評議員　大上紀美雄
評議員　尾山征一郎
評議員　神沢　幹夫
評議員　河上弥一郎
評議員　西能　綾子
評議員　西能　孜
評議員　坂本　重一
評議員　笹山真治郎
評議員　土田　亮一
評議員　古沢　富美

頌　西能病院職員一同

うちの先生

建築家から医者志望へ大転換

内科　堀江章彦　医師



◎プロフィール

昭和二十七年、八尾町生まれ。五十二年に東北大学工学部建築学科卒業後、東京大学大学院工学系研究科を五十五年に修了。

明治・大正時代の工業や建築の歴史を勉強してきたが、「もう少し社会の役に立つ仕事をしたい」と、建築家医師志望を医師志望に変更。

金沢大学医学部医学科に入り直し、六十三年に卒業したという変わり種の先生である。

卒業後は、金沢大学医学部付属病院第一内科、黒部市民病院内科など、石川県・富山県内のいくつかの病院で勤務。豊富な経験を積んで、平成五年六月から当院の内科医師に。

少々とっつきにくそうに見えるが、「内科医になったのは、血を見るのが恐いからです」という、気の優しい先生である。糖尿病や甲状腺、内分泌疾患が専門。糖尿病はとくに患者さんの治療努力が必要なので、厳しい顔つきも職業用と思ってほしい。

学生時代は仙台、東京、金沢で過ごしたがやはり故郷の富山、八尾町が好き、という。

「八尾町出身の琴ケ梅」が十両に落ちたので悲しいですけどね」

趣味はモダンジャズを聴くこと、映画を観ること。俳優のロバート・デニーロの気ちがいじみたところがなんとなく好きとか。

休日は、今のところはゴロ寝で体力・気力の回復にあてているそう。余裕が出てくればテニスをしたいそうで教えてくれる人を募集中である。

◎診察風景拝見

病室・外来診療のほか、訪問診療にも出かけている。

この日は富山市東町の患者さん宅を、山本看護部長と共に訪問。

脈や血圧を計り、聴診器をあてながら日頃の様子を聞く。

「起きていてもテレビを見ているだけなので寝てばかりいます」

「立ったり座ったりしているほうがいいですよ。寝てばかりいると骨がもろくなりますからね」と優しく注意。

ドライブへ連れて行ってもらった話などにあいづちをうち、

「体の調子は良いですよ。転ばないように気をつけて。お大事に」

自宅療養の患者さんにとって、先生に診てもらい〝大丈夫〟といわれると、何よりも心強いようである。

「病気を見逃さないこと」に気をつけているという堀江医師。聴診器の音に神経を集中

より良い看護を目ざして一泊研修

当たり前のことの価値を再認識

――第10回看護部管理者育成研修会――

平成五年七月から一年間の予定で開いている看護部管理者育成研修会は、十一月二十七日に第十回目を迎え、富山第一ホテルで一泊研修を行った。午後一時三十分から翌朝八時まで、宿泊ならではの密度の高い内容で、管理職の意識向上を図った。

第一ホテルの小集会室を借り切り、研修者十五人が参加。最初に中永久光常務から研修の目的の説明があったあと、理事長が開会の挨拶。

一時四十分から、医療法人愛仁会本部常任顧問の下間（しもつま）幸雄氏による「部下管理の知識と実習訓練」と題する講義と演習が始まった。

愛仁会で管理者の意識を高めるために使用している五十項目のチェックリストと、患者さんに満足してもらうための心構えをAからZまで二十六項目にまとめた「エリクソンのABC」を紹介。

その後、三グループに別れて、職場にありがちな問題をブレーン・ストーミングで解決にあたった。

その後は、当研修会を総合プロデュースしているメディアーク経営研究所所長、須磨忠昭氏が「後継者育成と教育研修の技法」に関し、解説とゲームを行った。ひと口に研修技法といっても多種多様。あまりの多さに参加者たちから驚きの声があがったほど。

五時からは、技法のなかでも紹介されたパネルディスカッション方式で「部下を管理し育成する」をテーマに話しあった。下間・須磨両氏に加え、職員の金谷智恵子・森口佳子・長谷近子看護婦がパネラーとして登壇。それぞれが現実の役職と違う立場（例えば総婦長は主任になる）で意見を述べあった。

夕食後も「管理者からみた当院看護部の組織向上改善策」について、夜遅くまでフリートーキングを行い、さらに研鑽を積んだ。

▲実習訓練で解説をする下間氏

▲研修技法について語る須磨氏

▲活発なパネルディスカッション

自然は文明と心の鏡 ①

日本画家　日展会員
富山県美術連合会会長
大島　秀信氏

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

富山県における日本画の第一人者、大島さんは、物心がついた時からひたすら絵を描いていたという根っからの絵描き。伝統を踏まえながら、常に変革を試みる氏の芸術・文明談義を六回に渡って掲載する。

絵を描くことが好きで

幼い頃から親しんだ日本画の世界

四才の頃からいつも絵を

西能　先生が絵を描こうと思われたのは、いつ頃のことですか。

大島　絵を描いたので覚えているのは四才くらいの頃です。

西能　ほお。

大島　子どもですから電車や船ですけどね。

「絵描きになろうと思われたきっかけは何ですか」と西能理事長

大島　いやあ、作品などというもんではありませんが、その頃は思いますが、僕らの世代にはそんなもんないですから、電車や船、飛行機などを描いていたんです。時間さえあれば絵を描いているもんだから、親が画用紙を二㎝くらいの厚さの束で買ってきてくれて「これに描け」という「俺にも描いてくれ」といったので、いい気になってその頃があります。

西能　小学校へ入られた頃は、クラスメートの中ではいい作品を描けるようになっておられたわけですか。

大島　絵を描くことが遊びだったわけですね。さて、それを本業にしようと思われたきっかけは何ですか。

大島　僕の家の隣に絵描きなんていうのは貧乏だ（笑）という抵抗があったんですが、なにしろ僕が絵ばかり描いているもんだから、親父も仕様がないと思ったんでしょう。

結局、その人と親父と僕の三人で、梅沢町の高沢華亭先生の所へそば屋さんがありましてね。そこのおばあちゃんが「おっちゃんの描かれた絵をほしい」と言われたんです。八寸という和紙に、南画の真似なんかを描いていたもんですから。

西能　いつ頃からですか。

大島　和紙に描いていたのは小学校五、六年ぐらいからです。頼まれたのは二十才前ぐらいのことですが。

西能　ほお。

大島　その店はお酒も出していて、店に貼ってある僕の絵を見たお客さんが「こりゃ、誰が描いたんだ」と言ったわけです。「隣のおっちゃんが描いた」と、こうきた。（笑）そしたら「そりゃ、もったいない。これは絵描きにした方がいい」というんです。それで紹介しろということでうちへ来られて「あんたとこのおっちゃん、絵がうまい。お父さん、絵描きにさせてやってくれ」と。普通だったら、そんなことまでしないが好きだったんです。

うちの父親には、絵描きなんていうのは貧乏だ（笑）という抵抗があったんですが、なにしろ僕が絵ばかり描いているもんだから、親父も仕様がないと思ったんでしょう。

結局、その人と親父と僕の三人で、梅沢町の高沢華亭先生の所へ

新春を病床で迎えて

足の尊さを痛感

天から与えられた休息

七十八歳になる今日まで、病気らしい病気もせず、歯科医として頑張ってまいりました。

それが、昨年十月五日、一番恐れ、嫁から

リハビリにはげむ　大井さん

も、いつも注意されていた事が起きてしまいました。

仰向けに転倒して大腿骨を骨折、即日入院、ちょっとした不注意から生活のリズムがすっかり変わってしまいました。

そして、健康だった足の尊さを深く感じています。今は、一生懸命にリハビリに励んでおります。

病院の皆さんの温かい励ましの言葉が大変嬉しく、心から感謝しています。

旧ろうの退院はちょっと無理だったので、お正月を病床で迎える寂しさも、天から与えられた休息の時間と受けとめています。

退院しましたら、まだまだ仕事を続けるつもりでおります。

（大井ハツ子＝八尾町）

職員の身も心も引き締まる一日の始まり

ある日の朝礼

当院では、月曜日から金曜日の朝8時30分から45分までの15分間、5階ホールで職員の朝礼を行っています。

接遇委員が出迎えます

八時半間近になると、持ち場から離れられない人を除いて、全職員が五階ホールに集まってきます。接遇委員（職員の接遇を良くするための委員）がドアの前に立ち、朝の挨拶をかわしながら迎えます。

時間ぴったりに音楽が鳴り、体操を開始。ラジオ体操と似ていますが、十年以上も前にリハビリの先生が〝狭い場所でできる効率の良い体操を〟と創作したもので、音楽もそれに合わせてアレンジしてあります。初めての人はみな、ビックリするとのこと。

体操のあとは各部署からの報告。まず当直者から時間外患者さんの人数と、保安関係の異常の有無について。看護当直者からは、夜間の患者さんの様子。事務部から前日の患者さんの外来状況、各フロアの病棟患者さんの入退院状況、手術予定の内容などを各担当者が報告します。

次はスピーチです。この日は月曜日で院長の担当日。政治改革、コメ問題、所得税と消費税のこと、時局の問題に触れながら「世の中は変化しています。変化に慢性化していますが、当院も、世の流れや人の心の変化などをよく見て対応していかなくてはなりません」と、語りました。

火曜から金曜日は、主任以上の職員（二十四人）が毎日交替でスピーチをします。内容は仕事のこと、雑誌や新聞で読んだこと、趣味のことなどいろいろです。

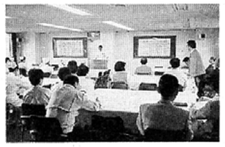
スピーチが終わると全員起立。前に掲げてある「心訓」の額に向かい唱和します。福沢諭吉のことばで「世の中で一番楽しく立派なことは一生涯を貫く仕事をもつことです」に始まり、〝みじめなこと、さびしいこと、みにくいこと、尊いこと、美しいこと、悲しいこと〟が書いてあります。

次に「ナイチンゲール誓詞」の額に向かい唱和します。医療人の心構えを的確にとらえたこのことばの最後は「わが手に托されたる人々の幸のために身を捧げん」

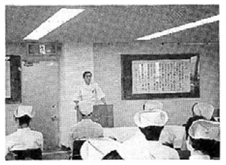
十五分の朝礼が、職員一人ひとりの身も心も引き締め、仕事への活力を生み出しているようです。

▼まずは体操

▼各部署からの報告



▼院長のスピーチ



事務部総務課施設係主任、石倉喜一氏は、昨年三月の開院三十一周年記念に永年勤続（三十年）表彰で旅行券をもらった。これを利用して十一月、夫妻同伴で「十泊十一日、アメリカ大自然の旅」を楽しんできた。その印象記―。

アメリカ大自然の旅

石倉主任が表彰旅行券で

―成田空港をユナイテッド航空便で出発、ロサンゼルス空港に到着したのは十一月二十日朝。レンタカー（七人同乗）で、グランドキャニオン、グレンキャニオン、ブライスキャニオン、ザイオンの各国立公園を見物したあと、ラスベガスへ。さらにサンディエゴで買い物などして、二十九日午前、同航空便で帰国の途についた。

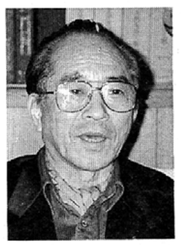
絶景のグランドキャニオン峡谷の石倉夫妻

三十二百㎞を走破したが、見ること、聞くこと、すべてが驚きと感激ばかりだった。雄大な自然、限りなく広がる砂漠、そして物価とくに食物の安さ。米十㎏が七百円、じゃがいも十㎏が百七十円といった具合。

印象深かったのはグランドキャニオンの谷の深さが千六百mもある大峡谷の素晴らしさ。砂漠の中の不夜城ラスベガスも。スロットマシンに初挑戦した。一回目はジャラジャラ百ドルでたので有頂天。それが五分位でなくなり、無料の氷をなめて〝熱〟をさました―。

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ



「そば屋のおばあちゃんに絵を描いてくれと頼まれて…」と大島氏

絵は墨で描くものと思い込んでいた

西能　ちょっと不思議なんですが、なぜ小学校五、六年で墨の絵を描かれたんですか。

大島　うちは親父が看板屋で、お袋が美容院をやっていたんです。親父が暇な時に、近所の古美術品の好きな人が遊びにくるんです。

西能　すると小学生の頃から絵描きになろうと思っていらしたんですな。

大島　いえいえ、小学校の時は、絵を描いて商売するということはさらさら思わなかったです。ただ、ずっと絵を描いていたいなと思っていましたが。

西能　そうですか。

大島　それで入選したもんですから、いよいよ絵描きになれるかな、と思いました。その頃になると、絵で食べているプロの絵描きさんがいて、審査にあたっておられたんです。

西能　すると小学生の頃から絵描きになろうと思っていらしたんですな。

大島　いえいえ、小学校の時は、絵を描いて商売するということはさらさら思わなかったです。ただ、ずっと絵を描いていたいなと思っていましたが。

西能　それで、持ってくる作品は皆、日本的なものの内容などを各担当者が報告します。

次はスピーチです。この日は月曜日で院長の担当日。政治改革、コメ問題、所得税と消費税のこと、時局の問題に触れながら「世の中は変化しています。変化に慢性化していますが、当院も、世の流れや人の心の変化などをよく見て対応していかなくてはなりません」

県展に入選してプロを意識

西能　プロでやっていこうと思われたのはいつ頃ですか。

大島　富山の焼け跡に総曲輪小学校が新しく建って、そこで第二回の富山県の美術展覧会（県展）が開かれることになったんです。高沢先生が「大島君、出してみたらどうか」

ま、僕は次から次へ何かやりたいという人間だから「はい、出します」いうて。でも、どうすればいいかわからない。先生が、展覧会にはこのくらいの大きさとか、絹に描くんだぞとか、いろいろ指導してくれたんです。それでエンドウ豆を描いて出品しました。それが二十才くらいですかね。

西能　そうですか。

大島　それで入選したもんですから、いよいよ絵描きになれるかな、と思いました。その頃になると、絵で食べているプロの絵描きさんがいて、審査にあたっておられたんです。

西能　すると小学生の頃から絵描きになろうと思っていらしたんですな。

大島　いえいえ、小学校の時は、絵を描いて商売するということはさらさら思わなかったです。ただ、ずっと絵を描いていたいなと思っていましたが。

西能　それで、持ってくる作品は皆、日本的なものの内容などを各担当者が報告します。

次はスピーチです。この日は月曜日で院長の担当日。政治改革、コメ問題、所得税と消費税のこと、時局の問題に触れながら「世の中は変化しています。変化に慢性化していますが、当院も、世の流れや人の心の変化などをよく見て対応していかなくてはなりません」

そば屋の客に絵の道をすすめられて

西能　絵を描くことが遊びだったわけですね。さて、それを本業にしようと思われたきっかけは何ですか。

大島　僕の家の隣に絵描きなんていうのは貧乏だ（笑）という抵抗があったんですが、なにしろ僕が絵ばかり描いているもんだから、親父も仕様がないと思ったんでしょう。

結局、その人と親父と僕の三人で、梅沢町の高沢華亭先生の所へ

プロの第一歩を踏み出したような気になります

すからね。努力すればやがて絵で食べていけるんじゃないかと、この時初めて、画家としての可能性を意識しました。

西能　先生は、学校の絵の先生をやってらっしゃったとか、そういうことは全然ないんですね。

大島　ええ、専門の学校へも行ってません。ただ好きで描いていたら、今まで話したような具合で絵の道へ入っていったということです。美大へでも行っていれば、職業として学校の先生になろうとか、考えたんでしょうが、僕には絵描きしかないわけです。地べたから這いあがってきたようなもんです。

西能　なるほどね。やっぱり、他の人とはちょっと違いますね。

大島　ちょっと前までは、学校を出ていないと不利だぞとかいわれたことがありました。でも、まあ、絵を描いて生きていければいいわけで。名誉よりも、絵を描くことが好きで、時間があれば絵を描いていました。そして、みなさんのお世話でここまでこれたということです。

（つづく）

医療サービスの〝質〟と〝効率〟の向上を目標

新年抱負

院長

新しい年を迎えて、西能院長は次のように呼びかけ―。「明けましておめでとうございます。今年は、診療報酬の改定の年であり、少なからず期待は致しますが、世の中は底の見えない不景気であり、医療界も冬の時代が続きそうであります。しかし全職員が協力して、医療サービスの〝質〟と〝効率〟を高めることを目標として頑張っていきたいと考えています」以下は主任以上の新春の抱負である。

看護部

ゆとりの職場を
笑顔、学び、看護の心を大切にして、ゆとりのある職場づくりの実現をめざしたい。
（部長　山本玲子）

看護業務の改善
「生き生きと働きたい」と望む仲間のために、看護業務の改善を進めていきたい。
（副部長　金谷智恵子）

看護の基本を大切に
心の通う温かい看護ができるよう、「基本を大切に」、新人教育にエネルギーを注ぐ。
（副部長　津田勝美）

よりよい人間関係
看護の道は厳しく困難だが、よりよい人間関係をつくり、活性化にがんばりたい。
（主任　三原八重子）

「一期一会」で
患者さんニーズの多様化のなかで、「一期一会」をモットーにして対応していきたい。
（主任　関　待子）

個性を生かして
創造性豊かな人間性を養い、スタッフの個性を生かし、仕事への熱意を持たせたい。
（主任　岩城真由美）

明るい職場を
看護の基礎を見直し、入院患者さんの安全を考え、スタッフが明るく働ける職場作りを。
（主任　上不雅子）

職場環境の向上
「当然すべき事」そして「創造する」機能を円滑にして、職場環境の向上を図りたい。
（主任　坪内奈津子）

出会い大切に
心身ともに健康で、真心ある看護を心がけ、また、人との出会いを大切にしていきたい。
（主任　奥平美和子）

「なぜ」を大切に
「なぜ」という小さな気づきを大切にして患者さん中心の看護に心がけていきたい。
（主任　森口佳子）

事務部

活動をより正確に
各部門の連繋を強化し、時間の暇、むら、無理をなくし、活動の正確度をより高める。
（部長　渡辺裕之）

心くばりを大切に
正しい礼儀作法、親切で専門的な助言で、患者さんに役立つ心くばりを大切にする。
（主任　石倉喜一）

コストの認識
経費節減に、職員一人ひとりが、材料、消耗品などのコストを認識するよう努めたい。
（主任　宮尾英新）

より良い環境
より良い環境で快適な入院および通院ができるよう、仕事の向上に全力を傾けたい。
（主任　三原美樹雄）

点数改訂の理解
ことしは、点数改訂があり、保険請求に対する知識の向上と解釈の理解を深めたい。
（主任　安川敏一）

生きがいの職場を
地域の皆様に愛される病院、職員には生きがいを持って働ける職場を目指したい。
（主任　五十嵐　均）

各部・課・室

全身全霊を
医療人としての心と、身につけた技術で、全身全霊を打ちこみたい。
（リハビリテーション課長　荒井紀夫）

周囲の信頼を
平凡なこと、些細なことを、おろそかにしないで、周囲からの信頼を得たい。
（同課主任　飛田勉）

常に定期点検
医療は常にパーフェクトで…。そのためにも関連機器の定期点検を重視したい。（レントゲン室課長　鎧貢）

専門職の知識を
患者さんには優しく温かみのある態度で接し、専門職としての知識、技術を身につける。
（同室主任　鎧政行）

400点業務の展開
今年は薬剤師の増員予定もあり、新しい業務（400点業務）の展開を図りたい。（薬剤部主任　上田謙一）

おいしい食事を
食事は食べてはじめて栄養になるので、おいしく食べていただく努力をしたい。（栄養部主任　二口雅子）

総力を集めて
①簡単にできることから実行②よい仕事をする③総力を集めることを実行したい。（経理部課長　平井幸二）

人間ドックで健康を
健康は、かけがえのない財産。今年も多くの人達に検診を勧めたい。（人間ドック推進部長　仙田光彦）

新人の抱負

「今を大切に」
頑張る
かけがえのない人生で選んだ看護の道を、後悔しないよう、「今を大切に」頑張って行きたいと思います。
（看護部　四分一淑子）

老人のお世話を
ぼく然と毎日を過ごしてきましたが、老人のお世話をと思い立ち五年前から看護の仕事に精を出しています。
（看護部　大伍佳子）

一つ一つを身につけて
教わることがたくさんありますが、一つ一つを身につけ、少しでも患者さんのお力になれるよう頑張ります。
（看護部　恒川幸子）

老人福祉の手引

生きがいの環境づくりを
制度のうまい利用が大切

（終）

【まとめ】
富山県の人口の高齢化の移行は、全国平均を上回って進行しており、平成三年の総人口に占める老年人口の割合は、一五・六％となっています。さらに平成三十三年には、二六・七％に達すると予想されています。

このような高齢社会に要介護老人対策は緊急の課題となっており、保健・医療・福祉が一体となって機能する必要性が痛感されます。

この欄では、十数回にわたり富山県内の老人福祉制度を紹介してきました。福祉サービスもニーズにあわせて多種多様なものとなっています。自分又は家族等介護者が直面した問題を自分たちで抱えこんでしまうのではなく、病院の医療相談室や市役所、町村役場などで相談して、制度をうまく利用することも大切だと思います。

人生80年の長寿社会をいきいきと生きがいを持って、明るく幸せに過ごせる環境づくりに心がけて下さい。

最後に相談援助機関を紹介します。「高齢者総合相談センター（シルバー110番）」「在宅介護支援センター」「ぼけ老人をかかえる家族の会」があります。

（医療ソーシャルワーカー　中井香織）

迎春

本年もよろしくお願い申し上げます

特定医療法人　財団五省会　西能病院職員一同

明石裕光　川幡典子　立道真貴子　的場里美
荒　英子　川端憲子　田中行久　宮尾英新
荒井紀夫　河辺信子　谷井睦子　宮崎明子
五十嵐　均　木下文雄　谷川寿男　宮島弘美
飯田喜美子　刑部和子　千々石昌代　宮原佳子
飯田啓子　刑部美和子　塚田克雄　三原美樹雄
石倉喜一　楠美知子　津川久美子　三原八重子
石倉国子　栗原純子　津田勝美　水家五月
石黒芳美　栗山みどり　恒川幸子　水野しのぶ
石坂晴美　講神直美　坪内奈津子　村井悟
石田誠　後田千鶴　寺垣恵美子　村井美雪
石橋富美子　光里専蔵　出戸春美　村口和子
石橋正美　小松恵子　戸田よし子　森紀子
石割正子　才木静香　飛田勉　森千秋
井澤悟美　西能正一郎　中井香織　森岡尚夫
井上千恵子　西能竑　中田達也　森川弘明
今井勝憲　西能綾子　中谷郁　森川美知子
今井由志美　西能渉　中永久光　森口佳子
岩城真由美　斉藤聡子　永井明子　森田忠秀
上田かおり　酒井祐子　永森栄子　森本香織
上田謙一　坂上雅子　永守美智子　矢後寛子
牛島早苗　坂田隆夫　波川満喜　八島省吾
内呂千春　坂田道子　能海勲　安川敏一
栄田正枝　坂本之子　野原かつみ　安川みどり
大石英子　笹林須美子　長谷川倭子　柳瀬都紀
大浦春美　四分一淑子　長谷近子　山口明江
大島佐登美　庄司絹子　早瀬とし子　山崎敦子
大場真由美　庄司伸江　林久美子　山下眞由美
大村育子　島井幸子　坂東ひろみ　山田章子
大山馨　島田ちづる　平井幸二　山田真佐子
太田きよ子　下崎登子　平野多佳得　山本玲子
岡田智子　上不雅子　廣井奈穂子　用水とも子
岡田久美子　新庄則子　廣永美保　横井佐敏
奥田徳子　杉林雪子　広田妃都美　横井浩子
奥平美和子　杉本春美　福岡恵美　吉崎智
各川静子　杉山幸乃　二口雅子　吉川恭子
扇沢窓香　仙田光彦　古井良洋　吉田美和子
柿本善一　関待子　堀和敏　吉村美和子
角波一実　大伍佳子　堀江章彦　米田絹代
角しげ美　橘寿美　正田愛　鎧政行
金谷智恵子　多田友美　松井晶代　鎧貢
金子昭典　高松亜紀子　松浦礼子　渡辺裕之
川尻恭子　高田良久　松田昌子
川西信子　竹田敏子　松永幸恵

（以上、百七十四人　五十音順、平成五年十二月末現在）